

令和 7 年度使用中学校教科用図書採択に係る選定理由書

種目	国語	第 1 : 東京書籍	第 2 : 光村図書
理 由	対象となった 4 社の図書はいずれも、生徒が、知識・技能を確実に習得し、国語ならではの「見方・考え方」を働かせながら探究的に学ぶことができるよう、各単元等の学習目標や学習活動の流れを明確に示している。また、古典を含めた様々な教材が、適切な構成・配列・分量で掲載されている。さらに、これらの内容の表現・表記にあたってユニバーサル・デザインに配慮するとともに、二次元コードを多く掲載し、生徒が主体的に学ぶことができるよう創意工夫されている。 とりわけ、第 1、第 2 図書は、各単元の学習活動の手順を示した「手引き」等において、学習の見通しと振り返りがより明確に位置付けられており、生徒が国語の「見方・考え方」を働かせながら探究的に学べるよう配慮されている。また、読書活動についても、おすすめの本の紹介に加えて、読書会といった活動や識者のコラムを掲載する等、生徒が主体的に読書活動に向かうよう工夫されている。そこで全体的にみて第 1、第 2 図書を選択した。 第 1 図書は、話し合い等を扱う単元において、発揮される言葉の力が明記されるとともに、テーマの例、想定される意見の例等が豊富に掲載されており、生徒の言語活動の充実に資するよう工夫されている。 第 2 図書は、国語の学習内容と他教科との関連を、冒頭の一覧表で示し、教科横断的な学習が充実するよう工夫されている。 両者を比較すると、第 1 図書の方が、各教材の冒頭において、吹き出しでわかりやすく課題を示し、教材の末尾の振り返りで自分の言葉でまとめさせる等、生徒の単元に対する興味・関心を高め、主体的・対話的で深い学びを促す点で優位である。		

種目	書写	第 1 : 光村図書	第 2 : 東京書籍
理 由	対象となった 4 社の図書はいずれも、書く時の姿勢や筆記具の持ち方について写真等を用いて示す、文字の楷書や行書の書き方について朱墨の文字を用いて点画が分かるよう示す、手本ごとに二次元コードを掲載し運筆の動画が視聴できるようにするなど、視覚的に捉えやすくし、生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。また、色遣いをはじめとしたユニバーサル・デザインに配慮した表現・表記となっている。さらに、書初めをはじめとした伝統や文化に関する学習活動や、書写で学んだことを普段の生活で活用するような学習活動が設定されていることも、4 社に共通している。		
	とりわけ、第 1、第 2 図書は、行書に調和する仮名の特徴が理解できるよう、仮名の形を図形で囲むことで分かりやすく示す等、他の 2 社に比べて、行書を学ぶ意義を生徒に気付かせる工夫がある。そこで全体的にみて第 1、第 2 図書を選択した。		
	第 1 図書は、巻頭の「別冊書写ブック」を取り外して硬筆の学習に活用することができ、知識や技能の定着に関する工夫がある。		
	第 2 図書は、生活の中の文字を書く場面を細かく具体的に設定して示し、書写で学んだことを普段の生活の中で活用するよう工夫している。		
	両者を比較すると、第 1 図書の方が、巻頭に「中学書写スタートブック」を配置し、書写の基礎・基本を分かりやすく示しながら、学習の進め方やタブレットの活用の仕方について掲載しており、生徒の書写に対する興味・関心を高め、主体的・対話的で深い学びを促す点で優位である。		

種目	社会（地理的分野）	第 1：東京書籍	第 2：帝国書院
理 由	対象となった 4 社の図書は、いずれも社会科の「見方・考え方」を働かせながら探究的に学ぶための工夫として、学習したことを振り返り、まとめる活動が設定されている。また、1 単位時間は見開き 2 ページとし、すべての見開きページに学習した内容を復習する項目があり、知識及び技能の定着を図り、理解を深める工夫をしている。		
	とりわけ、第 1、第 2 図書は、単元のまとめの活動で、具体的な「見方・考え方」を明示したり、「見方・考え方」を働かせる探究活動を設定したりしている。そこで全体的にみて第 1、第 2 図書を選択した。		
	第 1 図書は、「チェック」と「トライ」という見出しがあり、学習した内容を振り返るだけでなく、学習内容を活用して考察したり、表現したりする活動があり、基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための工夫がされている。また、「スキルアップ」や「もっと知りたい」など補足説明もある。まとめを行う活動では、自らの考えを整理したり、表現したりすることができるように小集団で活動するコーナーや、「見方・考え方」を働かせて探究課題に答える活動があるなど、作業的・体験的な学習が豊富に掲載されている。		
	第 2 図書は、各章のはじめにその章で働かせる「見方・考え方」にマークを付けて提示している。また、基礎的・基本的な技能を身に付けるために、「技能をみがく」というコーナーがあり、確実に知識及び技能を定着させようとする工夫がされている。		
	両者を比較すると、第 1 図書の方が、学習内容を活用して考察したり、表現したりする作業的・体験的な学習課題がより工夫されており、確実な知識及び技能の習得だけでなく、思考力、判断力、表現力等を育成するための手立てが施されている点で優位である。		

種目	社会（歴史的分野）	第 1：東京書籍	第 2：帝国書院
理 由	対象となった 9 社の図書は、いずれも 1 単位時間の学習課題として「どのような」、「なぜ」等の問いかけを記載し、その時間の到達すべき目標を分かりやすく明示する工夫がされている。また、各単元の導入についても、絵図や年表等を用いてこれから学習する単元の興味・関心を高めるような工夫がされている。		
	とりわけ、第 1、第 2 図書は、単元末のまとめにおける活動で、基礎的・基本的な知識の定着を確認する課題やその時代の特色を文章で表現するだけでなく、探究課題の解決に向けて、様々なツールを活用しながら学びを深めていくような工夫をしている。そこで、全体的にみて第 1、第 2 図書を選択した。		
	第 1 図書は、単元構成において三段階の問いを設定することで、無理なく課題解決に向けた学習を進めることが可能で、様々な思考ツールを活用し学びを深める活動や話し合い等対話的な活動も設定している。また、毎時間デジタルコンテンツを掲載しているので、学校や家庭での多様な学びに対応することも可能である。		
	第 2 図書は、単元構成において学習の見通しと振り返りがしやすく、学習した内容と現在の社会とのつながりが考えられるよう工夫されている。また、文化史のページを絵画や写真資料を用いて 4 ページで示すとともに、各時代の様子を示した想像図を大判で入れており、導入の学習活動を行いやすくなるよう工夫されている。		
	両者を比較すると、第 1 図書の方が、課題解決的な単元構成における問いが充実している点と、主体的、対話的で深い学びを実現させるための多様な活動が設定されているという点で優位である。		

種目	社会（公民分野）	第１：東京書籍	第２：帝国書院
理由	対象となった６社の図書は、いずれも１単位時間を見開き２ページとし、追究する知識及び技能の習得を図る工夫がされている。また、節末・章末などに文章表現等を用い、単元を貫く問いをまとめる活動が設定されている。さらに、公民としての基礎的教養を培うために、現代社会を捉える見方や考え方も示している。		
	とりわけ、第１、第２図書は、節末・章末のまとめの活動で、学習者が対話を通して学習内容を深める課題解決的な活動を設定したり、探究的な学習につなげたりして、対話を通じて学びを深めていくような工夫をしている。そこで全体的にみて第１、第２図書を選択した。		
	第１図書は、興味・関心を喚起する導入資料、何について学習するのかが分かる「学習課題」、学習内容を整理し、自分の言葉でまとめる「チェック」、「トライ」で構成されており、知識の確実な定着を図る工夫がされている。また、教科・分野関連マークを配置し、他教科や他分野との関連や既習事項との関連が図られている。さらに、小單元ごとに「探究のステップ」を設定し、それらを章末で整理・分析することで、項目のねらいの達成や、主体的に取り組むことのできる学習活動を設定するなどの工夫が見られる。		
	第２図書は、全てのページに小單元を貫く問いが明示されているなど、単元全体を意識した授業が構成しやすい工夫がされている。また、挿絵・写真や図表等の資料や生徒が主体的に取り組むための作業的・体験的な学習も豊富である。さらに、各章末に思考ツールを活用したり、話し合い活動等を設定したりした「学習を振り返ろう」を設けるなどの工夫が見られる。 両者を比較すると、第１図書の方が、課題解決的な学習活動や生徒が主体的に学習に取り組む活動が豊富に設定されているという点で優位である。		

種目	地図	第 1 : 帝国書院	第 2 : 東京書籍
理由	対象となった 2 社の図書は、基礎的・基本的な学習内容の定着を図るための工夫、「見方・考え方」を働かせながら探究的に学ぶための工夫がされているとともに、問題解決的な学習を展開するための工夫や他分野での学習や現代の諸課題に関連する学習にも活用できるよう工夫されている。また、いずれも特別支援教育に係る配慮やユニバーサルデザインの取組がされている。		
	第 1 図書は、全編を通して地形が捉えやすいように、等高段彩表現に陰影表現を合わせた立体感のある地図表現になっている。また、世界地図に、同緯度・同縮尺の日本地図が掲載されており、日本との比較ができるよう工夫されている。さらに、地図読解のための統計資料や図版資料等に加え、二次元コードを掲載し、学習を深める動画へのリンクや地域別資料等のコンテンツが閲覧できるとともに、地図活用等の地図読解の着眼点の掲載もある。		
	第 2 図書は、資料活用コーナーを新設し、地図の活用や学習を深めるためのヒントとなる問いが掲載されている。また、地理的分野以外の学習でも活用できるよう、主題図のタイトル横に歴史的分野、公民的分野との関連を示すアイコンが付けられている。さらに、関連する資料の参照ページを示す「ジャンプ」を設け、複数の資料を関連させて見るができるよう工夫されている。		
	両者を比較すると、第 1 図書の方が、日本の基本図・拡大図・都市圏図・都市図に各地の伝統的工芸品や、世界文化遺産が掲載されており、伝統や文化に関する学習に役立つ。また、世界、日本の資料は地域の特色が偏らずに理解できるよう、多角的に地図・資料が選定されていることから、授業の実態に応じた幅広い学習に対応できる点で優位である。		

種目	数学	第 1 : 東京書籍	第 2 : 教育出版
理 由	対象となった 7 社の図書は、学習指導要領の趣旨をふまえ内容に偏りなく適切に取り扱っている。また、どの図書も基礎的・基本的な知識や技能の習得をめざして例題や問題を構成し、他学年の関連内容等も丁寧に配置している。身の回りの事象をきっかけに学習を展開するなど、生徒の興味・関心を高める工夫とともに、主体的な学びにつなげるための多様な工夫や課題の精選がされている。協働的な学習を意識した課題、探究的な学びの提案等、学習を深める工夫も見られた。デジタルコンテンツも利用しやすい工夫が見られ、学びの支援に大いに役立つものになっている。		
	第 1 図書は、基礎的・基本的な知識や技能の習得のための丁寧な手立てとともに、日常生活や他教科、社会や今日的課題（防災・安全、環境、多様性の尊重、伝統・文化の尊重等）との関連を図り、学習内容や考え方を多方面で活用できるよう工夫している。また、すべての領域においてデジタルコンテンツを備え、動画やシミュレーション等による視覚支援、フラッシュ演算での反復練習、難易度の高い問題等、幅広く充実している。加えて、個別最適な学びへの対応、さらには多様な困難さを抱える生徒への支援等、ユニバーサルデザインの学びにも活用が期待される。		
	第 2 図書は、第 1 図書と同様、社会とのつながりを意識し、協働的な活動を多く仕組むことで、学びの連続性を意識した構成になっている。また、対話的な場面を多く設定し、疑問をもちながら深い学びへと向かっていく学ぶサイクルが定着する工夫がされている。		
	両者を比較すると、第 1 図書の方が、他教科や社会（今日的課題）とのつながり、デジタルコンテンツを含めた内容の充実の点で優位である。		

種目	理科	第 1 : 啓林館	第 2 : 東京書籍
理由	対象となった 5 社の図書は、内容の配列・分量、内容の表現・表記に違いはあるが、構成について次のような工夫がされている。 知識及び技能の習得については、単元末に学習の整理や問題が設けられていたり、実験に係る基本操作の説明が設けられていたりするなどの工夫が見られる。思考力、判断力、表現力等の育成については、「見方・考え方」を働かせながら探究的に学ぶための工夫が見られる。主体的に学習に取り組む工夫では、学習内容に対する興味・関心を高める工夫や、単元のはじめに学習を通して解決する課題を提示することで、探究的な学習を展開することができるような工夫が見られる。内容の構成・配列・分量では、伝統文化や科学の歴史についての内容を取り入れたり、教科横断的な学習の充実に関する内容を掲載したりする工夫が見られる。内容の表現・表記では、有効な写真や模式図、動画の二次元コードがある。また、中学生の会話のイラストがあり、生徒にとって親しみやすい表現の工夫が見られる。		
	とりわけ、第 1、第 2 の図書は、生徒が理解しやすいように、資料や動画の内容・分量ともバランスよく精選し示されており、主体的に学習が進められるよう工夫がされている。また、伝統や文化に関する内容や教科横断的な学習に関する内容も充実している。そこで全体的にみて第 1、第 2 の図書を選択した。 第 1 図書は、巻頭部分で探究の過程を図とイラストを用いて示すとともに、各章の最初に身近な事象を課題として設定し、学習後に再度振り返る工夫がされている。また、単元末には、学んだ学習内容を活用し新たな課題に取り組めるような工夫がされている。 第 2 図書は、巻頭部分で探究の流れを図とイラストを用いて示すとともに、各章の最初と最後に課題が提示されており、学習前後の変化を比較させる工夫がされている。 両者を比較すると、第 1 図書の方が、生徒が探究的な学習を進めていくために、探究の過程を生徒自身が書き込むシートを領域ごとに掲載しており、探究の流れをつかみやすくするような工夫がされている点で優位である。		

種目	音楽（一般）	第１：教育芸術社	第２：教育出版
理由	対象となった２社の図書は、生徒の興味・関心を引き出し、知識及び技能を定着させるとともに、思考力、判断力、表現力等を育成するため、それぞれに多様な学習ができるように工夫されている。		
	第１図書は、「音楽的な見方・考え方」を働かせる際の視点となる、「音楽を形づくっている要素」を分かりやすく提示するなど、知識の定着を図り理解を深めるための工夫が見られるほか、創作においては生徒個々が容易に創作を行い、クラス全体でも共有が可能なツールが用意されるなど、主体的かつ協働的に学習に取り組む工夫がされている。また、「生活や社会の中の音や音楽」が全学年で掲載されており、SDGsに触れることも含めて生活や社会における音や音楽の働き、音楽文化についての関心や理解を深めていくため、内容の取扱い等に工夫が見られる。		
	第２図書では、鑑賞において、各楽曲がどの時代に作られたが明確に示されているほか、音楽を形作っている要素について図で分かりやすく説明しているなど、基礎的な知識や技能の定着を図る工夫がされている。また、他者と協働しながら表現を工夫したり、音楽や演奏の良さや価値を考えたりする学習を展開するために、キャラクターの吹き出しで具体的な活動内容を示すほか、調べたり考えたりしたことを整理するページを掲載するなど、思考力、判断力、表現力等の育成を図る工夫が見られる。		
	音楽科の目標である、「音楽的な見方・考え方」を働かせた学習活動を通じて、生活や社会の中にある音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成する点においては、第１図書の方が生徒と教師が学習の視点を共有しながら授業を展開しやすく、また生活や社会の中の音や音楽との関わりを学びやすい工夫がされている。さらに、第１図書には、二次元コードによる効果的なデジタルコンテンツが用意されており、生徒が個別に学習を深めたり、他者と協働して課題解決に取り組んだりするなど、主体的で多様な音楽の学習活動を展開できる可能性が感じられる。これらの点で、第１図書の方が優位である。		

種目	音楽（器楽合奏）	第 1：教育出版	第 2：教育芸術社
理由	対象となった 2 社の図書は、知識や技能を確実に定着させるために、写真やイラストを多く使い、理解しやすい工夫がされている。また、問題解決的な学習についても、プロの奏者のコメントを掲載することで興味・関心を高めたり、友だちとの意見交流やアンサンブルなどの多様な活動を設定したりするなどの工夫がなされている。		
	第 1 図書は、各楽器の構造・種類・奏法・構え方・運指などが的確に提示されている。また「表現の仕方を調べてみよう」、「吹く楽器の仲間たち」、「弾く楽器の仲間たち」において、楽器を比較しながら、演奏や楽器の構造や音色などについて探究的に学習することができるよう工夫がされている。さらに、リコーダーなどの楽器演奏では、生徒の興味・関心を引き出す身近で演奏しやすい楽曲を数多く取り扱っている。楽器を「吹く楽器」、「弾く楽器」、「打楽器」のまとまりで示し、我が国や諸外国の楽器や音楽文化を比較しながら理解できるような工夫も見られる。		
	第 2 図書は、掲載されている楽器の基本的な奏法について、二次元コードによるデジタルコンテンツで確認することができる。また、探究的な学びとして曲に対する自分の考えをもち、意見交流をして表現や鑑賞の学習を深めるための、「学びのコンパス」が掲載されている。さらに、親しみや実感をもって主体的に音楽に接することができるよう、和楽器の演奏において唱歌や口三味線を歌う活動が示されている。演奏では楽譜を提示するだけではなく、創作のページを「My Melody」として提示し、発展的な学習の場を設定している。		
	主体的・対話的で深い学びの実現を図ることや、そのために「音楽的な見方・考え方」を働かせ、他者と協働しながら、思考・判断・表現する一連の過程を大切にしたい学習の充実を図ることが求められる中、第 1 図書は生徒に身近な楽曲も含め、より多く楽曲を扱うことで生徒の主体性を引き出し、多様な活動を行うことが可能であると考える。また、合奏のみならず、演奏や楽器の構造や音色、我が国や諸外国の楽器や音楽文化などについて、「音楽的な見方・考え方」を働かせながら整理したり、交流して共有したりする場がより多く設定されており、他者と協働しながら、思考、判断、表現する学習を充実することが期待できる。さらに、ギターのコード表に運指が写真で掲載されるなど、表現・表記がより演奏法を理解しやすいものとなっており、知識や技能の定着が図りやすい。これらの点で、第 1 図書の方が優位である。		

種目	美術	第 1 : 光村図書	第 2 : 日本文教出版
理由	対象となった 3 社の図書は、観点 1（知識及び技能の習得）においては、どれも学習目標に関連する基礎的な技法を示すなどの工夫がされている。また、観点 2（思考力、判断力、表現力等の育成）においては、発想・構想、鑑賞の場面における言語活動の示し方に工夫がされている。観点 3（主体的に学習に取り組む工夫）においては、学習指導要領にある育成すべき「資質・能力」の 3 つの柱に対応した目標を題材ごとに示すなどの工夫がされ、主体的な活動を実現するためのデジタルコンテンツも充実している。表現及び鑑賞への興味・関心を高めるため、生活や社会の中の美術の働きを示す具体例も示されている。		
	とりわけ、第 1、第 2 図書は、観点 5（内容の表現・表記）において、原寸での表し方や質感のある用紙の使用等、本物に近い感覚で鑑賞できる工夫をしている。そこで全体的にみて、第 1、第 2 図書を選択した。		
	第 1 図書は、題材の初めに表現につながる鑑賞作品を掲載し、「表現」と「鑑賞」の相互の関係を意識し、一つの題材の中で一体的に学べる構成になっている。また、さまざまな表現技法や材料の使い方が掲載された別冊資料を用意し、生徒が「資料」を活用しながら、主体的に制作を進めていくための工夫をしている。		
	第 2 図書は、題材ごとに「鑑賞への入り口」と「造形的な視点」を示し、造形的な「見方・考え方」を働かせながら探究的に学ぶための工夫がされている。また、巻末に資料ページを設定し、生きて働く知識及び技能の習得が図れる構成になっている。 両者を比較すると、第 1 図書の方が、生徒が主体的に考え、学びたくなる工夫がより見られる点で優位である。		

種目	保健体育	第 1 : 大修館	第 2 : 東京書籍
理 由	対象となった 4 社の図書は、授業内に本時の学習を振り返らせる場面や、各章末に振り返り問題を設定するなど、知識及び技能を習得させたり、カラー写真や挿絵を効果的に取り入れて興味・関心をもたせたりする工夫がされている。また、主体的に学習に取り組む工夫として、ウェブサイトやデジタルコンテンツを活用して学びを深める活動を取り入れるなど工夫がされている。		
	とりわけ、第 1、第 2 図書は、配当時間と構成における工夫はもとより、主体的・対話的で深い学びの実現しやすさ、知識及び技能の習得のしやすさ等の工夫も見られる。そこで全体的にみて、第 1、第 2 図書を選択した。		
	第 1 図書は、全ての内容項目を 1 見開き 1 単位時間の構成とし、学習指導要領に示されている体育理論 9 項目、保健分野 4 8 項目で配列を工夫している。また、イラストや資料によって気付きや思考を促し、主体的・対話的で深い学びへの深化を図る工夫をしている。さらに、各章の章末において知識及び技能を習得させるため多様な設問が掲載されている。		
	第 2 図書は、資料やキーワードに関する動画を多く掲載しており、発見した課題を解決するために興味・関心を引き出し、主体的に課題解決に取り組む学習の進め方の工夫がされている。		
	両者を比較すると、第 1 図書の方が、効果的な課題提示をしており、生徒にとって課題が発見しやすい工夫がされている点で優位である。		

種目	技術・家庭(技術分野)	第 1 : 東京書籍	第 2 : 開隆堂
理由	対象となった 3 社の図書は、「技術の見方・考え方」を働かせ、ものづくりなどの実践的・体験的な活動を通して、より良い生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成するための様々な学習内容を取り入れている。また、各所に二次元コードを配置して学習内容に沿ったデジタルコンテンツが視聴できるようになっている。		
	とりわけ、第 1、第 2 図書は、全体的にみて内容の構成・表示の面等において工夫が充実していることから選択した。		
	第 1 図書は、章末に重要語句の一覧と基礎問題を掲載し、学習の振り返りを行うことで基礎・基本の定着が図られるよう工夫されている。また、問題解決学習を進めるにあたり、イラストの吹き出しを用いて思考するためのヒントが掲載されていたり、思考ツールを紹介し、考えを整理する方法が示されていたりするなど、主体的に取り組める工夫がなされている。加えて P D C A サイクルの考え方を実習に取り入れ、主体的・協働的に取り組めるよう工夫されている。		
	第 2 図書は、章末に基礎問題を掲載し、学習を振り返り、基礎・基本の定着が図られるよう工夫されている。また、ガイダンスで問題解決のための手順を示し、その手順に沿って各章の内容が記述されており、問題の発見から課題解決までを主体的に考え、実践できるよう工夫されている。		
	両者を比較すると、第 1 図書の方が、思考ツールや P D C A サイクルの活用など、より主体的・協働的な活動の充実を図っている点で優位である。		

種目	技術・家庭（家庭分野）	第 1：東京書籍	第 2：開隆堂
理 由	対象となった 3 社の図書は、家庭生活に関する基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得させるために、写真やイラストを多く用いて生徒の興味や関心を高めている。作業工程などがイメージしやすいように、二次元コードにより動画や写真を用いた課題への取り組み方が掲載されており、主体的に学習に取り組む上での工夫が見られる。また、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら探究的に学ぶ工夫もされている。		
	とりわけ、第 1、第 2 図書は、全体的にみて主体的な学びにつながる工夫が充実していることから選択した。		
	第 1 図書は、五大栄養素と 6 つの食品群の関連を折り込みページで示し、関連を分かりやすくするための工夫がされている。また、各編の導入は、見開きで構成され、資料性の高い写真やイラスト等を用いて生徒の興味・関心を高め、見方・考え方の例が示されている。さらに動画やシミュレーション、図鑑などのデジタルコンテンツが豊富で、まつり縫いやスナップ付けでは、右利き・左利きの両方のコンテンツがあるなどの多様な生徒の実態について配慮されている。		
	第 2 図書は、調理実習例のページに「調理方法 Q & A」として、調理のポイントがまとめられている等、知識及び技能の定着を図り、理解を深めるための工夫が見られる。		
	両者を比較すると、第 1 図書の方が、家庭科の学習を生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識・技能の習得につなげる視点でまとめている点で優位である。		

種目	英語	第 1 : 三省堂	第 2 : 東京書籍
理由	対象となった 6 社の図書は、生徒に興味・関心をもたせる内容で構成されており、絵・写真を豊富に用いて親しみやすい表現・表記となっている。また、生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう、学習の到達目標が具体的に示されている。多くのページに二次元コードが設置されており、生徒が繰り返しアクセスすることで、学習内容の理解や定着を図ることが可能となっている。知識を活用して思考力、判断力、表現力等を身に付けながら技能を高める言語活動も多様に設定されている。		
	とりわけ、第 1、第 2 図書は、生徒が身近に感じたり考えたりすることができる内容が豊富である。各単元の初めに単元のゴールにつながる表現や写真・イラストが掲載されており、生徒にとってゴールがイメージしやすい。4 技能 5 領域を統合した活動や教科横断的な学習につながる内容もある。そこで全体的にみて、第 1、第 2 図書を選択した。		
	第 1 図書は、基本的に見開き構成とし、その時間に学習する内容が一目で分かる工夫がある。また、1 つの単元が実生活に基づいたストーリーで展開されており、生徒と同世代の人物の目線で考えることができるよう工夫されている。さらに、単元の目標を達成するため、言語活動を通して、段階的に学び、考え、表現するよう構成されている。ほとんどのページに二次元コードが設置されており、生徒が各自の課題に応じて主体的に学習に取り組めるようなコンテンツも準備されている。		
	第 2 図書は、目次に単元の活動目標が具体的に示されており、学習の展望をもちやすくする工夫がある。単元のまとめの言語活動において、生徒が学習の到達度を自己評価しながらスモールステップで取り組み、4 技能 5 領域を統合的に活用できるよう内容及び構成が工夫されている。さらに、二次元コードにより音声や映像をもとに興味・関心を引き出す工夫が多様にある。帯活動用に即興で伝え合う活動を支援する資料や語順カードの掲載など文構造の理解を体験的に学ぶ工夫もある。		
	両者を比較すると、第 1 図書の方が、デジタルコンテンツを含め、主体的な学習や多様な言語活動に対応するための内容を多く設定している点で優位である。		

種目	道徳	第 1 : 東京書籍	第 2 : 光村図書
理 由	対象となった 7 社の図書は、中学校学習指導要領「特別の教科道徳」の目標に基づいて内容や構成が考えられている。道徳科の学習において、「深く考える」「対話にもとづいた議論」を実現するために、生徒にとって身近なものにするための視点に基づいて教材を選定し、異なる立場からの意見を取り上げたり、新聞の意見投書文を活用した教材を掲載したりするなどの工夫が見られる。また、コラムが多数掲載されており、単元に関する興味・関心を高めながら、多様な展開も期待できる。さらに、「いじめ問題」をはじめ、現代的課題に向き合うための複数の教材が設けられ、対話しながら身のまわりの当たり前を問うことができる。		
	とりわけ、第 1、第 2 図書は、5 つの観点で吟味すると、発問の種類や数、問題解決的な学習の展開となるものや自分の考えを深めたり、広げたりするための工夫が見られる。こうした調査結果を踏まえて、考え議論する道徳、多様な見方へと発展させ自分の生き方について深く考える道徳の実現の面から、第 1、第 2 図書を選択した。		
	第 1 図書は、物事を多面的・多角的に考えられることを促すために、文章ではなく漫画やイラストを主たる資料とした教材やストーリーに関連する写真が豊富である。また、各学年の巻末には、話し合い活動を円滑にするための「心情円」が設けてある。さらに、各教材には、人間としての生き方を深く考えるための問いが設定してある。		
	第 2 図書は、各教材に、内容項目について考える場面の他に、別の立場や視点から考えることができる問いが設定してある。また、生徒同士で様々な立場の意見を交流する場面や学んだことと日常生活などをつなげ、考えをさらに深めるための問いが設定してある。 両者を比較すると、第 1 図書の方が、道徳科での考える方法（学び方）は様々であることを提示し、考えるときの手段が分かりやすくまとめられており、道徳科の学習の理解をより深められるような工夫がされている。また、多面的・多角的に考えられるように、文章ではなく漫画やイラストを主たる資料としたさまざまな形の教材や理解を補足する資料が多数、設けられている。これらの点で、第 1 図書の方が優位である。		